明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

堺枯川編輯

家庭雜誌

第六號

明治三十六年九月二日發行

百年後の新社會

是れはアメリカのボストン市の人が、睡眠術にかゝつて百年あまり眠つてしまつて、フト目が醒めて見たれば、紀元二千年と云ふ時であつて、見るもの、聞くもの、皆意外の事ばかりで、社會の進歩變遷に驚くと云ふ話である。（本誌第壹號ユトピアの話は即ち此一部であります）

是れはベラミーと云ふ人の書いた有名な著述ルツキング、バツクワードの全部を縮譯したもので、原書は此話の主人公の自叙躰になつて居る。

此話の中に現れたる百年後の新社會は、原著者ベラミーの理想であつて、米國では、此理想を實現せしめんか爲に國民主義（ナシヨナリズム）と云ふが起り、社會主義の一派として盛んに改革運動をやつて居る。

此本は米國で五十万部賣れて、猶其上に殆んど總べての國語に反譯せられて居る。

ベラミーは一八九八年に死んだ。

由分社

東京市京橋區新港町一丁目十七番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●本社取次書籍目錄

本社に於て取次販賣を爲す書籍は、本誌の讀者諸君に限りて特に**定價の一二割引**にて御求に應ずる事と致します。但し郵劵代用にて御送金は御斷致す

▲家庭の新風味（堺枯川著）全六冊、定價一圓、郵税八錢、奇麗なる赤き表紙の合本。

（▲第一冊、家庭の組織（結婚論、夫婦論、家族論。附錄、春風村舍の記）▲第二冊、家庭の事務（秘書官として、大藏大臣として、內務大臣として。附錄、由分子禁烟の歷史）▲第三冊、家庭の文學（新聞、雜誌、書籍、日記、手紙、和歌、俳諧）▲第四冊、家庭の親愛（夫婦の間、親子の間、家族の間。附錄、毛皮裏の外套、愛犬黑）▲第五冊、家庭の和樂（食卓、來客、宴會、散步及出遊、遊戲、小供及老人、家畜及庭園。附錄、當世紳士、藤室牧師の家庭）▲第六冊、家庭の敎育（妻の教育、家族の教育、子の教育。附錄、極樂寺谷の晝飯、顏を美しくする法、補遺）

▲家庭夜話（堺枯川編輯）全三冊、定價[illegible]、郵税十錢。各冊三十五錢、郵税四錢。

（▲第一冊、子孫繁昌の話（堺枯川譯述、原作は佛國最近の小説大家ゾラの理想を發揮したるフルートフルネス）▲第二冊、質素儉約の話（加藤眠柳譯述 原作は有名なる英國の文人ゴールドスミスの第一の傑作たるウイカ、オブ、エーキフイルド）▲第三冊、仁慈博愛の話（志津野又郎譯述、原作は米國ストー夫人が無限の同情を注ぎたる奴隷談、アンクル、トムス、ケビン）

▲我家の犬猫（動物虐待防止會叢書第一篇）定價八錢、郵税二錢。（此書に限り郵劵九錢にて御註文に應ず）

▲枯川隨筆（家庭文學第一篇）定價廿五錢、郵税二錢。

▲言文一致普通文（堺枯川著）定價廿五錢、郵税二錢。

右以外の書籍に對しては取次を御斷り致す旨前號に廣告して置きましたが、それにも係はらず猶御注文あるに依り、止むを得ず、今般は同の書籍にても取次することと致しましたが、然し右以外の書籍に對しては**割引なし**

●本誌定價及廣告料

▲定價 一冊六錢、半年分前金卅二錢 一年分全六十錢、郵税なし。郵劵代用は一割增の事。

▲廣告料 特別一頁七圓、普通一頁五圓。

發行所 由分社 東京市京橋區新港町一丁目十七番地

大賣捌所 上田屋良明堂 東京堂 東海堂

明治三十六年八月廿九日印刷
明治三十六年九月二 日發行

發行兼編輯人 東京府豐多摩郡淀橋町角筈七百三十八番地 堺利彥

印刷人 東京市牛込區市ケ谷加賀町一丁目十二番地 森潤二

印刷所 東京市牛込區市[illegible]地 秀[illegible]

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

百年後の新社會

(ベラミー著、ルツキング、バツクヤード抄譯)

(一) 結婚式の延引、睡眠術

時は耶蘇紀元千八百八十七年(念の爲に申す、今年は千九百三年であります)、アメリカのボストン市に西野と云ふ金持の若紳士があつて、智慧子と云ふ同じ金持の美しい娘と約束が整うて、程なく結婚の式を擧げる筈であつた所、貧富の懸隔が段々はげしくなつた世の中とて、資本家に對する勞働者の不平が盛んになつて、あちこちの工場や製造所にストライキが幾つも起つて、さすが金持連も餘り安き心は無いので、折角の結婚式も暫く延々となつて居た。

五月三十日の事、西野は智慧子の家の宴會に招かれて、夜も稍ふけて後、智慧子と惜しき別れをして、寂しき我が獨住の家に歸つたが、イツもの癖とて目が冴えて眠られぬ。西野には此の眠られぬ癖があるので、地の底ふかく秘密の一室を作つて、そこに極めて靜かなる寢室を設けて居るのであるが、それでも今夜はドウしても眠られぬ。そこで是れも亦かゝる場合のイツもの例とて、動物電氣博士とやら稱する睡眠術の先生を呼びよせて、其力に依つてヤツトの事で熟睡した、翌朝九時に呼醒す樣にと老僕に命じた儘で。

(二) 百十三年の眠

「ヤ、ヤ、目をあけそうだ。餘り大勢人の居ない方が善いだらう」と云ふのは男の聲。「ぢや屹度あの事は云はないで下さいよ」と云ふのは女の聲。そして孰れもヒソ〱聲。「マア模樣に依つてさ」「厭、厭、屹度云はないで下さいよ」「あの子の云ふ通りにしておやりなさいよ」と云ふのは又別の女の聲。「よし〱、それでは云ひはしないよ。サ、早くアチラに行つた〱。それ、それ、目をあけさうにしてるぢや無いか」

是れで話は止んで、衣の摺れる音が聞えたかと思ふと、西野はフツと目が醒めた。見れば六十ばかりの立派な、柔和な紳士が我が上に俯向いて居る。固より見覺えの無い人である。あたりを見廻すと之れも見覺え

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の無い部屋である。
「如何です、御氣分は」と老紳士は云つた。「こゝは一躰ドコです」と西野は云つた。「こゝは私の內です」「ドウして私はこゝに來たのでしよう。私は確に私の內に寐たのですが」
西野は只呆れて居る。老紳士は其說明はせずに、「私は醫者だが、マアちと氣を落ちつけて下さい」と云つて、一杯の飲物を西野に與へた。西野はそれを飲んで猶頻りに說明を求めた。老紳士は漸く「此說明はアナタのお考へなさる樣な單純な事ではありません。それよりは先づアナタにお尋ねしますが、アナタがアナタのお內に寐たと仰しやるのは其れはイツの事です」
「イツと云つて、勿論昨晩の事です」とは云つたものゝ、西野はドウやら餘程永く寐た樣な心地がするッそれて若や一日寐過したかと思つて、「三十日の夜です」と云つた。「ハヽア、それは何月の事です」「何月、勿論今月です、五月です」「今月は九月ですが」「ナニ九月、五月から九月まで」「イヤ先づお待ちなさい。あなたは五月の三十日に寐たと仰しやるが、それは何年の事です」「勿論千八百八十七年の事です」
西野は目を丸くして驚いて居る。老紳士は更に一杯の飲物を西野に薦めて後、徐ろに左の說明を與へた。
「見受ける所、あなたは三十歲ばかりの青年で、其容貌は永き眠の間に少しも變らなんだものと察せられるが、驚きたまふな、今日は紀元二千年の九月十日で、あなたは正に百十三年と三ヶ月と十一日との永き月日を眠つたのであります」
餘りの事に西野は殆んど氣絕したが、老紳士の藥力に依つて、又十二時間の安眠を貪つて、それに稍心氣を回復して、半信半疑の間に老紳士の話を聞けば、ザット左の通りである。老紳士が化學の實驗室を其廣庭に作らんとて、地盤を堅めさせて居た時に、そこの地の底から十九世紀時代の建築物を堀りだした。其上に灰の深く積んで居た事から想像すれば、曾て此所に火事があつて、此の地の底の建築物だけ燒け殘つた者と思はれた。それで老紳士は好奇心に驅られて、其建築

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

物の中を捜索した所が、そこに一つの寐臺があつて、生きたるが如き青年が其上に横たはつて居る。意外の獲物に驚かされて段々取調べて見た所が、動物電氣の作用に依つて永く睡眠の狀態に陷つた者と認めたので、それ〳〵法を施したれば、即ち此の通り蘇生したのであるとの事。

此說明を聞いても西野は猶半信半疑であつたが、老紳士が西野を伴うて家の棟の物見臺に登つた時には、西野もモウ紀元二千年の今日を疑ふ事が出來なんだ。何となれば、見渡す限りの美麗壯大なる其市街は到底十九世紀の物では無かつた。そして猶善く見渡せば、川の位置と海の位置とは正に昔のボストンの地勢であるのだもの。

(三) 智慧子

西野を堀りだした此老紳士は井土博士と云ふ醫者であつた。西野は井土博士の懇ろなる言葉に從ひ、先づ湯に入つて着物を改め、輕き食事を取りて後、井土夫人と令孃とに紹介せられた。西野が最初目の醒めかけた時に朧げに聞いた女の聲は、此二人であつたのである。日もやう〳〵暮れて、其夜は四人で限なき物語に時を過ごした。西野は紀元二千年の此婦人達を物珍らしく眺めたが、夫人も令孃も美しき人で、殊に其の活々としてサモ健康らしき所が、どうしても昔の婦人とは違つて居る。それに一つ西野の驚いたのは、令孃の名が(我が昔の愛せし人のと同じく)智慧子と云ふ事である。

其夜の談話は勿論西野の眠つた時の事で持切つて居たが、結局、其時の事情は多分斯うでもあつたらうかと云ふ事になつた。即ち、西野の眠つた其晩に大火事があつて西野の家は燒けてしまつた。西野には家族もなく、地の底の寢室の事は彼の老僕と動物電氣博士との外に知る人は無かつたので、其老僕は燒死んだかも知れず、電氣博士はドウなつたか分らぬが、兎にかく西野の親戚友人は西野を燒死んだものと思つたに相違ない。それから其の跡の土地はドウか云ふ譯で空地になつて、其後、今の樣な庭園にせられて居たのであら

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

う。

此談話の中にも、西野が屢々智慧子の美しさに引かれて其顔を打見る時、いつも二人の目と目が行き合つて、ハッとしては脇にそらして居た。

（四）　新社會への繋ぎの鎖

夜が更けて夫人と智慧子とは寝室に退いた。西野も今夜は容易に眠られそうもないと云ひ、博士も夜ふかしが好と云ふので、又暫らく二人で話す事になつた。博士曰く「今の世に十九世紀の人と話をするのは實に得がたい機會ですからな」

それから話は今昔の比較になつて、西野は先づ昔の勞働問題の始末を尋ねた。博士曰く、「其問題は自然に解釋せられたのです。經濟界の進化の當然の結果で、それより外に進み様は無かつたのです。それで此社會の爲した事は、只其進化の勢ひを助けて其足を早めたまでの事です」「そうですかねえ。私の眠つた其頃までは、まだソンナ進化の傾きも見えませんでしたがねえ」「イヤそれに就いて今の歴史家が不思議がつて居るのですよ。あなたの時代の人は實にドウも時勢を察するの明が無かつたと云つて。其頃モウ隨分色々な兆候があつたではありませんか。貧富の懸隔、貧民の不平、社會一般の不穏と悲慘……」「それは勿論、社會の動搖は我々も認めて居た所で、實にドウなる事かと思つて居ました」「其動搖の第一は何でありましたか」「それは云ふ迄もなく勞働者のストライキでした」「其ストライキが何故にそれほど有力であつたでしよう」「それは勞働者の團結した爲です」「サアそこです。勞働者の團結したのは大資本の力に抵抗する爲で、畢竟は資本が集積した結果でしよう。少しづゝの資本が別々に運轉せられて居た時には、勞働者も少し奮發して勉強すれば資本主となれたのですけれど、段々と資本が集積して大資本ばかりとなつたので、資本家と勞働者との階級が全く別れて、勞働者は勞働者と團結して資本家に當るより外は無くなつて來たのです。當時の記錄を見ると、此の資本の集積に對する世間の攻撃は隨分激烈であつて、大資本の壓制

は古今未曾有の暴戻を極めるなどゝ云つたものですね。然るに、是等の攻擊にも拘はらず、資本の合同は彌々盛んに行はれて、鐵道も製造所も皆シンヂゲートやトラストの物となつてしまつたのです。それから都會には商品の大陳列場(大勸工場)が出來て總べての小賣店を併呑してしまふ、地方の小賣店は皆此大陳列場の支店の爲に併呑せられてしまふと云ふ有樣です。そこで先の小賣店の主人は、モウ獨立ては其資本を卸す事業も無いので、止むを得ず其陳列場の株主となつて又其雇人となつてしまつたのです。こんな譯で、世間の攻擊にも係はらず、社會の事業が終に少數の人々の手に握られてしまつたのは、經濟上どうしてもソウならねばならぬ道理があつたからの事です。いよ〳〵大資本で大仕掛にやつて見ると、それは以前小仕掛てやつたとは譯が違つて非常の効果を奏する、世界の富は暫くの間に驚くほど增加する、勿論、其結果として富者ばかり益々富んで、貧富の懸隔は層一層と甚だしくなつたのではあるが、さりとて此勢ひを今更昔に返す事は出來ぬ、是れを昔の小機仕に返すのは、社會全躰の上から非常の損耗です。そこでドウかして此やりかたで以て、富豪政治の壓制を免れる法は無いかと云ふ考へが世間に湧いて來たのです。それで、資本の合同、事業の獨占に趨く傾向は、其眞の意味に於ては決して反對攻擊すべき者てはなく、是れこそ新社會に到達すべき進化の道行であると云ふ事が分つて來たのです。そうして廿世紀の初にはモウちやんと此進化が行はれてしまつたのです。と云ふは、全國の資本を唯一つに合同し、全國の事業を唯一つに獨占したのです。即ち、國民全躰が大會社、大シンヂゲートを作つて、總べての事業を國民の手てやる事になつたのです。トラスト時代は終に一大トラストに歸したのです。扨そうなつて考へて見ると、工業なり、商業なり、總べて人民の衣食住を司どる經濟上の事が、人生第一の必須の事であるのに、それを久しい間、資本家とか富豪とかの手に握らせて、彼等が私慾の計ひに任せておいたのは、何と云ふ不都合な、何と云ふ馬鹿らしい事であつたか

知れぬのです。それが丁度、昔し〳〵政治上の權力を國王や貴族の手にばかり握らせて、人民全躰の安危を彼等の虚榮心の計ひに任せたのと全く同じ事であつたのです」

一成程どうも非常の變化です。然し、それ程の大變化を行ふには、定めし多くの血を流し、多くの混雜を起した事でしようね」「イヤ何の混雜もありません。此變化は早くから見え透いて居たので、輿論は國民全躰を其背後に控へて既に十分に熟して居たのですから、大トラストも、大シンデゲートも、最早如何ともする事は出來なんだのです。それに人民の方でも、是等の大會社に對する惡感は消えてしまつて、是れも進化の道行てある、新社會への繋ぎの鎖であると思ふ事になつたのです。まだ十九世紀のアナタの時代では、工業、商業の一切を國家事業にするなどゝは、迚も出來る事では無いと思はれて居たてしようが、其後、大會社の現出に依つて、人民は眼前に其の大仕掛の實驗を見たのです。それて其大會社から國民事業に轉じたのは、

實にホンの一飛であつたのです」

（五）　國民勞働隊

西野は井土博士の説明を聞いて、暫く目を閉ぢて其變化の次第を考へて居たが、疑問が續々と湧いて來る樣子で、先づ「それでは政府の職掌が餘り多くなりすぎはしませぬか。我々の時代には、眞の政府の職掌は軍事と警察とだけだと考へられて居たのですが」と問ひだした。博士はそれに答へて「昔の政府は人民の子弟を驅つて血の雨を降らせて、おまけに多くの金を湯水の樣に使ひすてたが、今の世には敵國も無ければ戰爭も無い。政府の職掌は只人民の爲に饑寒を防いで、其身神の保護と給養とを勉めるだけの事です」と説明した。西野は又「其樣な事務一切を政府に任せては、政治家の甚だしく腐敗する恐れはありませんか」と問うた。博士は又「今の世には政黨もなければ政治家も無い。官吏が私利を計らうにも其道が無い。又其必要も無い。それらはマア是れからユル〳〵我々の社會の實狀を御覧になれば分ります」と説明した。西野

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は更に轉じて勞働問題の始末を問うた。「國民が資本家の代りになつたとすればヤハリ國民が勞働者の扱ひに困りはしませんか」「そんな事はありせん。我々は勞働をも國民的組織にして、ツマリ昔の徵兵制度を勞働問題に適用して居るのです」「それて其勞働軍隊の服役年限は終身てすか」「決して、決して。昔の工場には子供も老人も居たてしようが、今の勞働隊は普通敎育の終了する廿一歲から四十五歲まて廿四年間に限るのてす」

西野は更に又「軍隊は皆同じ樣な仕事をするから始末が善いのてすが、勞働隊ては仕事の分け方をドウするのてすか、誰が其れを極めるてしよう」と問うた。「それは自分の思ふ通りに極めるので、何ても一番善く自分に適した事をやるのが、社會の爲にも利益てあり、又自分の爲にも愉快だと云ふのが我々の主義てあります」「それては或仕事には志願者が多くて、或仕事には志願者が無いと云ふ困難が起りはしませぬか」「其困難を除く爲に、仕事の種類に依つて勞働の時間を定めるのです。即ち、志願者の多い仕事は其時間を長くし、志願者の少い仕事は其時間を短くするのです。一日の勞働時間僅に十分と云ふ樣な仕事もあるのです。是れて以つて仕事と志願者の數とを釣合せて行くのですが、若し又、極めて困難で、極めて危險な仕事がある時には、特別名譽の業務として隊中一般から義勇者を募集するのです。又、總べての勞働員は種々なる場合の必要に應ずる爲に、其專門の仕事の外に第二第三の副專門を定めて其練習をもやつておくのです。然し、多くの場合、專門勞働員に不足を生じた時は、大概普通勞働員の方から補充するのです」「其普通勞働員とは」「成程それはマダ說明しませんてしたが、凡そ新入の勞働員は最初の三年間まづ普通勞働員となつて、三年の後に始めて專門の仕事に就のです。專門の仕事を撰ぶ事の出來ぬほど遲鈍の者は止むを得ず生涯普通勞働員で終る事になるのです」「然らば精神的の仕事をやらうと云ふ人はドウするのでしようか」「それは三年の普通勞働を終つた後、自分の信ず

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る所に依つて定めるので、志願者はそれ〳〵公費を以て專門の學校に入れる事になつて居るのです」「それでは勞働を避ける爲に專門學校の入學を志願する者が多くて困りはしませぬか」「イヤ其樣な事は決して無い。才能の無い人が才能の優れた人々の間に交つて行くよりは、他の仕事に就いた方が餘程の樂ですから、誰もソンナ馬鹿な事をする者はありません。尤も、果して才能があるか無いか、果して何れに才能が適して居るか、人にも我れにも分らぬものですから、苟くも少しく志しのある者は遠慮なしに試みさせるのです。そして不適當ならばズン〳〵と方向を換へさせる迄の事です。それで各種の學校にも三十歲までは自由に入學を許す事となつて居ます」

西野は彼れを聞き、之れを聞き、分つたようでもあり、又胸に落ちぬようでもあり、暫く茫然として居たが、忽ち思ひ出だした如く「それはソウと井上博士、其勞働隊に於ては賃銀（或は給料）の問題は一體ドウなつて居るのですか」と問うた。博士は「ハツハヽヽ

ヽヽヽ」と笑ひだしたが、「成程、成程、其御疑問も無理では無い。然しアナタもまだ躰が十分で無い。夜も更けてモウ三時になつた。今夜は是れだけにしておいて、是れでも一杯飲んでお休みなさい」

西野は井上博士に與へられたる一杯の酒を飲んで、猶多くの疑問を抱いたまゝ眠に就いた。

（六）　同情の手

翌朝、西野が目さめた時、暫くは昨日の事を忘れて昔の智慧子に別れて地の底の寢室に寢た夜の其翌朝と思うて居た。まだ目も十分には開かず、只心地よくウツラ〳〵として、近々結婚する筈の事など思ひめぐらして居たが、フトもう何時になつたかと、目を開けばイツもの所に時計が無い、オヤと思ふうちに昨日おとつひの事がピカ〳〵と頭の中に閃きわたつた。ムツクと寢臺の上に起きあがつたが、頭がグラ〳〵として居たゝまらぬ。今度は寢臺から飛びおりて、破れそうな頭を兩手でシツカリ押へて居たが、やはり立つても居ても居られぬ心地がする。慌てながら着物を着て、朝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子を取るなり直ぐに表に飛びだした。戸締りとても別に無い、盗賊の居らぬ世の中と見える。

西野は新らしき空氣にホッと息をつきながら、此珍らしきボストン市を經めぐりはじめた。見れば見るほど驚かれる變化である。子供の時に旅に出て〻、五十年の後に故郷に歸つた人が、其變化に驚く話は聞いた事もあるが、それでも今西野の場合には比べ物にもならぬ。况んや西野は昨夜眠つて今朝目さめたと感じて居るのに、時は既に百餘年を經て、世は斯くの如く變化して居るのである。凡そ二時間ばかりも殆んど夢中の有樣で此異國を歩いた後、西野は又元の井土博士の家に歸つては來たもの〻、何とは無しに悲しく、苦しく、恐ろしく、只茫然として立つて居た。そこに智慧子が現はれて、「マアあなたドウなされました」と氣遣ひながら摺りよつて樣々と慰める。西野は溺れたる人が投げられたる綱にすがるが如く、思はずも智慧子の手を取つて其深き同情を感謝した。

（七）一樣の分配

西野は智慧子の同情に慰められて、纔に胸を落ちつけながら、程なく博士夫婦と共に食卓に就いた。「今朝の散歩で大分御見物が出來ましたね」など〻夫人が話しだしたので、「實に私は驚いてしまひましたが、中にも一番不思議に思うたのは、商店だの、銀行だのが此市中に一つも無い事ですが、あれは一躰どう云ふ譯です」と西野は問ひ出した。博士は微笑しながら「今の社會にはモウ其樣な者の必要が無いのです。賣るの買ふのと云ふ事が無いから商店も無く、金だの錢だのと云ふ者が無いから銀行も無いのです」と答へた。

食事が終つて、博士は例の屋の棟の物見臺に西野を導き、更に前の話を續けた。「西野さん、昔の社會では生産を私人の手に任せて、無數の人が銘々勝手な物を產出したので、それで亂雜な交換（即ち賣買）が必要で、從つて其交換の媒介として貨幣（即ち金錢）も必要であつたのですが、今の社會では國民全躰が一手で以て生産をやるので、人民衣食住の需要品は悉く國庫から直接に分配する事になつて居るのです」「では其の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

分配法は「それは極めて簡單です。政府は毎年の初に總べての人民に對し其分配額に應ずるだけの切手を割りつける、人民は其切手を近處の物品陳列場に持つて行つて入用な品物を受取るのです。尤も、昔の貨幣の名前だけは殘してあつて、其切手にはヤハリ圓と錢との價が付けてあつて、陳列場に持つて行けば書記が其中から、コチラで受取つた品物の價だけを鋏みきる事になつて居るのです」「それでは若しか人が一年の分配額を早く使ひすごした場合には」「成程御尤も、それに對しては翌年の分を少しくらゐ前取する事も出來るのです。然し、分配額は隨分澤山にしてありますから、それを使ひ盡す場合は少いのです。それでも甚だしい不取締の人に對しては、一月毎に、或は一週間毎に切手を渡すのです。それでもマダいけない時には全く切手を渡さぬ事もあるのです」「それでは其分配額を使ひ盡さぬ時には段々貯蓄が出來る譯ですね」「成程それも或場合には少しくらゐ許されますが、默つて居れば其殘つた分は其人の不用の者と見做して國庫に收めてしま

ひます」「それでは節儉貯蓄の考へが全く無くなつてしまひそうに思はれますが」「そんな考へは無くなつて善いのです。總べての人はオシメの中から墓の中まで全國民の保護を受けて居るのですから、別に銘々が貯蓄などする必要はありません」「でも人に依つて多くの分配を受ける者と不足な分配を受ける者とがありましよう。そこで又昨夜の給料問題が起つて來ますが、それはヤハリ政府で定めるのですが。隨分困難な事でしようね」「それにしても別に困難はありますまい。職業の種類に依つて給料を定めて、志願者の多少を見て年々其增減を行つても善いと思ひます。然し今の社會は職業の高下を認めません」「では何の資格に對して分配をするのです」「人たるの資格に對して」「では總べての人が皆一樣の分配を受けねばならぬ譯ですが」「勿論そうです」

此に至つて西野は實に驚きの極點に達した。疑問はムラ〳〵と湧いて來る。人の働きには甚だしい差等があるのに、それに一樣の分配をするとはドウしても呑

込まれぬ。博士はそれを説明して曰く。今の社會は總べての人に其力だけの働きを要求するので、働きの結果には差等があつても、精一杯と云ふ所は一樣である。多く働き得る者が多く働くのは當然で、それが働かぬ時には罰をも加へねばならぬが、力の足らぬ者が多く働き得ぬのも亦當然で、それを責める筈は無い。

西野は別に又疑問を生じた。其樣に分配を一樣にしては、人を奬勵する法が無くなりはせぬてあらうか。博士はそれを説明して曰く。人は衣食の憂や奢侈の慾ばかりに刺激せられて、それで働いて居るのでは無い。昔からも衣食以外、金錢以外、種々なる奬勵法があつた。名譽及び他人の感謝と云ふ事がイツても尤も強き奬勵になつて居る。今の社會には下等の奬勵は無くなつて、上等の奬勵ばかり存して居るのである。

斯かる話の中に、智慧子が外出の裝ひて現はれて來た。父博士に何やら告げに來たのてある。博士はそれを聞いて「西野さん、智慧子は今陳列場に行くそうてすが、あなたも一つ實地を見て來てはドウてす」

（八）　物品陳列場

西野と智慧子とは物品陳列場に出かけて行つた。「西野さん、是れが私達の區の陳列場です」と智慧子が云ふのを見れば、今朝西野が散歩の時、何か知らんが大きな建築だと思つて見た其建物である。中に入れば、光線の善くはいる廣い大きな土間て、眞中には噴水があつて、其周圍には捨床几などがあつて、そして四方の壁に添うて色々の店があつて、其上には大きな看板が掛かつて居る。智慧子はモスリンの店へ足を向けた。

「オヤ、こゝには番頭も小僧も居ませんね」

「まだ誰も居なくて善いのですよ。私まだドレにするか極めないのですもの」

成程、品物の撰びをする間は誰も居なくて善い筈である。そこに並べてある多くの見本には一々札がついて居て、其品の産地、性質、値段等が明細に記してある。智慧子は暫くアレコレと見た上て、直ぐ側にある呼鈴の釦を押した。すると一人の書記がヒヨコリとそ

とに現はれて、智慧子の注文を是々と聞いて、直ぐにサラ〳〵と注文状を書いて、それを小箱に入れて運輸管の中に落した。運輸管と云ふのは水道の鐵管の樣な者で、空氣の壓力を用ゐて、手紙でも、小荷物でも、極めて速かに遠方に送る事になつて居る。それから智慧子は切手を出して書記に渡すと、書記はモスリンの價だけを鋏み切つて智慧子に返した。すると智慧子はもうサッサと行きかける。西野は不思議に思うて「智慧子さん、こゝは見本ばかり陳列する所ですか」と問うた。「オホヽ、陳列場は皆見本ばかりですよ。品物は市の中央倉庫にあるのですもの。先刻書記が注文狀を運輸管に入れましたでしよう。今頃はあれが中央倉庫に屆いて居ましよう」「なアるほど」「中央倉庫では諸方の陳列場から來る注文を受けつけて、直ぐに荷作りをして、直ぐに運輸管で送りだすのですが、其手順の早いと見て居ても心地の善い程ですよ」「なアるほど、そして其品物は此陳列場に屆くのですか」「いゝえ、それは別に昔の郵便局のような者が各區にありまして、中央倉庫からソコに屆くと、直ぐにソコから内に配達して呉れます。是れから内に歸つたら屹度もうモスリンの小包が屆いて居ましよう」「なアるほど、然し智慧子さん、こんな便利な事は大きな都會より外には迚も出來ますまい」「ナニ大概の村には陳列場がありまして、そしてヤハリ運輸管が近所の都會に通じて居ますから、別に大した不便はありません」（此邊の事は本誌第壹號のユートピアの話と全じものであります）

（九）　音樂、遺産、家事、醫者

陳列場から歸つて來て、智慧子は西野を音樂室に導いた。「今は五時ですね。サア此表の中から何でもアナタがお望みなさい」と云ひながら智慧子は一枚の印刷物を西野に渡した。それは音樂の目錄で、上の方に二千年九月十二日とあつて、それから時間に分けて目錄が出來て居る。西野は五時の所に色々書いてある中からオルガンを所望した。智慧子は部屋の隅に行つてネジを二つ三つ掛けた樣であつたが、間もなく劉亮たるオルガンの響が室内に漲りわたつた。西野は驚いて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

只感に堪へて居る。それが一曲すんで後、智慧子は更にヴァイオリンの一節を聞かせた。西野が終に其不思議なる仕掛について尋ねると、智慧子は笑ひながら「別に不思議な事はありません。品物の配達も仝じ道理ですもの。市の中央に大きな音樂堂があつて、少しの費用を拂へばソコから其家に電話を掛けるのです。そして毎日目錄を配つて來るのですが、御覽の通りドンな種類の音樂でも大抵無いものはありません」と說明した。「成程。總べての人が自分の內で何の音樂でも自由自在に聞く事が出來る、文明の進步も實にコヽまで來れば極點ですね」と西野は彌々感心した。

其夜、西野は博士夫婦と樣々の話をしたが、何の序からか財產相續の話になつて、「では、今の社會では財產の相談を許さないのですね」と問うた。「左樣、人が死ねれば一定の葬式料を與へられるきりで、切手の効力は無くなるのです。然し、其他の所有物は自分の好な人に讓る事が出來るのです」「では其財產が段々蓄積せられて、又貧富の不平均を生ずるではありませんか」「イヤ、そんな氣遣はありません。今日の考へでは、實際入用の無い物を澤山に持つて居るのは、邪魔で困る、面倒で仕樣が無いと云ふので、不必要な物は皆國庫に返してしまひます」

それから話は家事の事に移つた。「昔でも隨分下女下男の使ひ方にはドコの細君も困つたものですが、此の平等の社會には猶更であらうと思はれます」と西野は云つた。「イヤ、今の社會では眞に總べての人が平等であるので、ドンな役目を務めたからとて其平等に傷はつきません。人は皆お互に他人の爲に務めあふと云ふのが根本の主義ですから、家事の雜務であらうが、何であらうが、不平を云ふ者はありません。然し、我々はソンナ人を使ふ必要は無いのです」と博士が云つた。「ではドナタが臺所の事などをなさるのです」「別にする程の事はないのですもの」と今度は夫人が相手をして「洗濯は極僅な費用で公立の洗濯所でやりますし、料理には公立の料理所がありますし、着物も公立の裁縫所で拵へますし、火や光は勿論すべて電氣でやりま

すし、家は御覧の通り手數の掛からぬよう掛からぬようと、ドコまでも便利に作つてありますし、家内に人を使ふ必要は少しもありません」「なアるほど、それでは今の社會は全く御婦人達の極樂です」

話は更に醫士の事に移つた。「それでは醫士もヤハリ其筋から派遣せられるのですか」「イヤ、醫者は平生から患者たる人の生理上の狀態に熟して居る必要もあるので、ヤハリ昔の風にしてあります。只、其費用が一定して居つて、醫者が其費用を患者の切手から取つて其筋の役所に屆けるだけが違ふのです」「では皆が上手な醫士の所にばかり行つて、下手な醫士は丸てヒマと云ふ樣な事になりはしませんか」「それは非役の醫者たる私としてはチト云ひにくい事てすけれど、今の社會て醫者になる程の者に、下手のある筈はありません。それに醫者は常に醫務局に對して業務の報告をして居るので、若し相當に務めて居ぬ事が見える時には、勿論たゞちに他の職業に移らせます」

（十）　勞働隊の奬勵法、患者隊

其夜又、婦人達が寢室に退いて後、西野は久しく博士と語つた。其語つた所は彼の勞働隊の事で、西野は昨夜から今朝にかけて聞いただけではドウしても奬勵が不足のように思はれて、それだけで人が果して十分に勉强心を起すであらうかと危まれるので、重ねて其事を博士に尋ねた所が、博士は左の通りの說明を與へた。

勞働隊には各隊に部長があり隊長があり、又進んでは高級の役人がある。それで先づ最初の三年間は普通勞働員として從順、勤務等の習慣を習へられ、其間に絕えず成績を注意せられて居る。それから各々專門を撰んで其職業の徒弟となる。徒弟の年限は職業に依つて一定せぬが、其の修業を終つて後はじめて其隊の隊員となる。隊員は總べて三級に分たれて、其各級が又上下に分たれて居る。各員は普通勞働員及び徒弟としての成績に依つて、或は一級となり、或は二級となる。然し大概は最初三級になつて段々と進んで行く。それから各隊を區別する徽章があつて、隊員は皆それ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を附けて居るが、級に依つて金、銀、鐵の差別がある。其他にもマダいろ〳〵特權、自由、免除等の形を以て奬勵を與へる小方法が幾つもある。それで生涯最下級に殘る者は極めて少數で、大概の者は多少の昇進をして多少の名譽を得る事になつて居る。然し、働きの出來る者が我儘で働かぬ場合には、隨分嚴重な制裁があつて、直ぐに禁錮してパンと水とばかりを與へておく。

次に、第三級（即ち最上級）を二年務めた者の中から副部長を選ぶ。既に役人になつた以上は其部下の成績に依つて其後の昇進をする。それで副部長の中から成績に依つて部長を選び出す。それ以上の昇進については又別の定めがあるけれど、それは今こゝで説明が出來ぬ。元來、階級と云ひ、名譽と云ひ、此樣な奬勵が無くては人が働かぬと云ふのは甚だ淺ましい事であるけれども、二十世紀の終なる今に於ても、人の心がマダそれ以上に進まぬから仕方が無い。

それから博士は又、患者隊と云ふ者の事を説明した。患者隊とは身體及び精神の不具者を別に集めて、それに相應する輕い仕事を宛てがふのである。西野は之を聞いて「それは善い思付ですね。慈善もソウ云ふ風にすると大變に善くなる」と感心する。博士は驚いた振で「ナニ慈善、あなたは患者隊を慈善と思ひますか」「でも慈善ではありませんか、彼等に獨立の生活の出來ぬ以上は」「獨立の生活、誰にソンナ事が出來ますか。人類がマダ家庭を作らなんだ昔こそは或は獨立の生活も出來たか知らぬが、少しづゝでも共同生活を始めてからはモウ獨立なぞと云ふ事は無いのです。文明の社會は人々互に依賴して互に助けあふのが一般の法則です」「でも人を助けるほどの力の無い者に對しては」「イヤ、力の有無に係はらず、苟くも人たる以上は同樣です」「では、盲も、啞も、病身者も、倔强の働き手も、皆同じ分配を受けるのですか」「勿論。マア考へて御覧なさい。あなたの家に病身な弟があつたとして、其時あなたは其弟に自分のよりも粗末な着物を着せ、粗末な部屋に入れ、粗末な食物を與へますか。そ

してアナタはそれを慈善と云ひますか」「如何にもソンナ事は出來ませんが、然し、四海兄弟と云ふのと骨肉の兄弟とは違ひますからな」「そこが即ち十九世紀の考へですよ。廿世紀の文明の根本は、此の人類同胞、四海兄弟の思想を、骨肉の同胞兄弟の場合と同じ樣に、實際に、切實に感じて來た所に在るのです」「成程。然しドウも、自分に働きの出來ぬ者が社會の產物の分配を要求する權利があると云ふのは分りませんね」「そんな事を云ふものではありません。假令倔強な働き手でも、祖先以來數千万年のお蔭に依つてこそ今日の樣な產物を作り得るのではありませんか。此社會に在る智識や機械はドウして我々の物になつて居るのです。畢竟、此社會の產物の九分までは祖先の力に依るのではありませんか。して見れば、我々健全な者も、病身な者も、不具者も、皆一樣に此の祖先の讓り物を受けつぐべき權利があるではありませんか。それを強い者が勝手に取上げておいて、ホンの少しづゝ弱い者に分けてやつて、ヤレ慈善だの、ヤレ救助だのとは、隨分虫

の善い話ではありませんか」

（十一） 世界聯邦、國際會議

其夜西野は音樂の電話の使ひ方を敎へて貰つて、丁度目ざまし時計の樣にネジを掛けておいて眠に就いた。翌朝は大變に愉快な夢を見ながら目が醒めた。醒めて見れば勇ましい音樂の響が寢室に滿ちて居る。其お蔭に今朝はモウ何の煩悶もなく起き出でて、愉快に食卓に就く事が出來た。

食後の話は、今日は國際の關係に及んだ。博士の說明に依れば、北米合衆國の率先に依り、歐洲諸大國、濠洲、メキシコ、南アメリカの諸國など皆おひ〳〵に新社會の經濟組織が出來て、それらの國々は緩かなる世界聯邦を形ちづくつて、國際會議を設けて相互の交際及び貿易の事を議定し、猶他の後進國に對しては、漸次文明の制度を採用せしめるように、合同政策を立てる事になつて居る。そして各國內には十分自由なる自治が行はれて居るのである。

西野は又忽ち疑問を起した。「貨幣が無くてドウして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

貿易が出來ますか」「それは斯うです。貿易と云つても、今日では國と國とが單位になつてヤルのですから、世界中に僅々十人か十五人かの商人がある譯ですから、取引は極めて簡單て、一冊の帳簿があれば其れて澤山なのです」

西野は又別の疑問を起した。「或一國の人が他國に旅行する場合は貨幣なしてドウするのですか」「アメリカの切手はヨーロッパにも有効です。例へば、アメリカの人がベルリンに旅行した時、其所持の切手を市役所に持つて行けば、入用の分だけ獨逸の切手に替へて貰ふ事が出來るのです」

（十二）　道路の雨蔽、公食堂

此日井土家の人々は西野を公食堂に案内する事となつた。西野は公食堂と聞いて不審そうな顔付をして居るので、博士は「昨夜もお話しゝた通り、我々の食物は總べて公立の料理所から供給せられるので、大概、朝と晝との二度は內で手輕な物を食べて、夕方だけ皆打連れて公食堂に行つて御馳走を食べる事になつて居るのです。然し此兩三日は、アナタが今少し物馴れる迄と言つて、出かける事を見合はせて居たのです」と說明した。

然るに、晝すぎになつて雨が大變に降りだしたので、今日も亦公食堂行はダメであらうと西野は思つて居た所が、其時刻になると、夫人も智慧子もチャンと仕度をして部屋から出て來た。そして傘も持つて居ねば雨靴も穿いて居ぬ。西野は不思議だなと思ひながら附いて行くと、成程、表に出て見れば傘は入らぬ。通りの兩側の人道には一面に雨蔽が張つてあつて、丸で廊下の中を歩くような心地である。それに西野が驚いて居ると、智慧子はクス〳〵笑つて居る。博士は西野を振返つて「西野さん、是れが即ち十九世紀と二十世紀と違ふ所ですよ。ボストン市の何十万の人が、雨が降ると云つて銘々に何十万本の傘をさした所が十九世紀の特色ですね。二十世紀では何十万の人が只つた一本の傘をさして居るのです」

西野は頗る赤面したが、兎角する中に早や公食堂へ

と來た。大きな石段を上つて、長い廊下を曲つて行くと、或部屋の戸に井土博士の名札が掛かつて居る。其戸をあけて中にはいると、丁度四人坐れる程の立派な食卓が整へてある。大きな窓の外には噴水の高くあがるのが見えて居る。ドコからか音樂も聞えて居る。「是れては丸て御自分の内の様てすね」と西野は云ふ。「是れがヤハリ我々の内なのてす、只少し離れて居るだけの事て。區内の仕人は少しばかりの費用を拂つて皆此建物の中に一間づゝ自分の食堂を持つて居るのてす。通りがゝりの人などの爲には別に又部屋もあります」

そこに給仕の少年がはいつて來た。給仕とは云へ、人品のある、相應の敎育を受けたらしい容貌てある。博士は何やら云ひつける、少年は一々承知して引下る。其様子を見るに、云ひつける方でも向ふを輕蔑するような風は無く、云ひつけられる方ても別段に恐縮するような所は無い。

西野「あんな立派な少年が善くコンナ賤しい事に甘んじて居るものてすね」博士「今の社會には賤しい事

と云ふは一つもありません」「ではアノ少年等は自から好んで給仕をやつて居るのてすか」「イヤ、自ら好む譯ても無いが、彼等は即ち雜務に從事する普通勞働員なのてす。私も四十年ほど前に、丁度此公食堂で六個月ばかり給仕を務めましたよ。總べて我々の働くのは、此國民の爲にするのであるから、給仕てあらうが、何てあらうが、少しも恥づる所は無いのてす。若し一個人の爲に働くのを賤しいとするならば、給仕も醫者も同じ事てす。今日はアノ少年が私の爲に給仕をするが、明日は私がアノ少年の爲に診察をするかも知れません。そんな事に貴いも賤しいも在つたものてはありますまい」

食事が濟んで後、博士等は西野を案内して此公食堂の内部をアチコチと見せて廻つた。其建築と云ひ、其裝飾と云ひ、將た又食事の善美を盡して居る事と云ひ、西野は只一々驚いて居る。博士曰く「我々は面倒を避ける爲に、自宅では何事も成るべく簡略にして置くが、其代り社交の方面は十分に飾つて、十分に樂しむので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すし

（十三）著述及び新聞

博士等は西野を案內して公食堂內の圖書室に來た。話は著述の事に移つた。夫人も智慧子も近來の傑作の小說について盛に噂をして居た。博士の說明に依れば、廿世紀に於ける此の經濟組織の大變化は人心に著るしき影響を與へて、燦然たる文化の一時に煥發するを見た。即ち、工藝上の發明、學理上の發見、文學、美術、音樂等の製作物が續々として現はれたと云ふ事である。

それより話は書籍出版の方法に及んだ。其方法は、政府に出版局があつて、何人の著述でも其希望に依つて出版するのであるが、其費用は著者に於て負擔せねばならぬ。著者は其書に價があると信ずる時には、半年一年の生活費を節して出版費を作り、出版局に賴んで賣出して貰ふ。そして其本が善く賣れた時には、政府は其收入を計算して、それに相當する年數だけ其著者の他の勞働を免除する。其免除は何も其人に對する賞與或は報酬では無く、更に他の有益なる著述を爲すの餘裕を與へるのである。

次に西野は新聞紙發行の方法を博士に尋ねた。是れは著述と少しく趣きを異にして、或地方又は或業務に就いて新聞紙を發行したいと思ふ時には、其費用を償ふに足るだけの購讀者を募つて、そして其購讀者が記者を選擧する、選擧せられた人がそれを承諾すれば、政府は其在職中其人の他の勞働を免除する、それから其記者が新聞を編輯するのは昔の風と同じである。

* * * * *

其翌朝の事、西野と智慧子と又色々の話をして居たが、話は祖先の事になつて「智慧子さん、私はあなたの曾祖母さんか曾祖父さんかを知つて居るかも知れませんよ。私は隨分交際を廣くして居ましたから、其頃のボストンの人は大概知つて居ました。若しか私とアナタの曾祖母さんと極懇意な間柄でゞもあつたら、隨分おかしいではありませんか」などゝ西野が話しだした。智慧子は笑を含んで聞いて居たが「ほんとにソン

ナ事があつたらオカシイてしようね」と云つた。「ためしにアナタの御先祖を調べて御覧なさい。」智慧子さん」と西野は頗る熱心てある。智慧子は彌々笑を含んて「そうてすね。イツカ善く調べて見ましようよ」

（十四）　行政組織

其日西野は博士に連れられて中央倉庫を見に行つた。是れて分配機關の働きはスツカリ呑込めたが今度は生産機關の働きに就いて疑問が起つて來た。

西野「物品の過不足の無い樣に、各勞働隊の仕事を定めるのは隨分繁雜な手續てしようね」博士「ナニ、仕掛は實に大きなものてすけれども、事務は其割に頗る簡單てす。今の社會ては針一本の行衞も明瞭になつて居るので、國民の需要に就いて極めて精密な統計が出來て、それに對する豫算は譯もなく立てられるのてす。それから生産部の全體は業務の大別に依つて十省に分たれ、各省の下に各種専門の業務を代表する數局があつて、其局の下に各種の勞働團があるのてす。それて大統領は分配部から提出する統計に依つて豫算を作

り、それを各省に命令する、各省はそれを各局に割りあてる、各局は直ちに其團に於いて製造に着手する、マア斯う云ふ順序てす」「成程。して其省長なり、局長なり、團長なりはドウして任命するのてす」「それは前にもお話しゝた通り、勞働員は部長から隊長に昇進して、それから團長になるのてすが、團長は任命ては無くて選擧に依るのてす」「それては團内に黨派などの出來る憂はありませんか」「イヤ、其選擧にも昔とは違ふ新案があるのてす。即ち團長は隊長の中から選擧せられるのてすが、選擧人は勞働員ては無くて、團の名譽員てあります。名譽員と云ふのは、其團に於て服役を終つた人々てす。既にお話しゝた通り、我々は四十五歳て除隊となつて、それから自由の生活をするのてすが、其以後は團の名譽員として團長の選擧人となるのです。それから此團長が即ち局長となつて行政の責任を負ふので、此人が實際すべての勞働を指揮監督するのてす」「では其上の省長は」「省長は昔の師團長（或は大臣、とも云ふべき者て、やはり團長の中から其省の管轄

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に屬する名譽員に依つて選擧せられるのです。それから此十人の省長の上に大統領があるので、大統領は一度省長を勤めた人の中から、勞働員以外の全國民に依つて選擧せられるのです」「大統領の任期は」「五年てす。五年の終には國會が開かれて、大統領は其任期中の事を報告するのです。そして其大統領が善く其任務を盡したと認むる時には、國民は其人をして更に五年間國際會議の委員を務めさせるのです」「成程。そうすると醫師、敎師の類はドウ云ふ風にして此行政部と關係を持つのですか」「それは普通勞働團の外に敎育團、醫務團等があつて、やはり其團の名譽員に依つて選擧せられたる特別の委員會があつて、そこて行政上の事を支配するのです。そして大統領は其委員會の會長となつて裁決權を持つのです」

其夜の談話に西野は又博士に問うた。「一般の人が四十五歳で仕事を止めるのは餘り早すぎるではありませんか」博士は微笑しながら「我々の眞の生活は四十五歳以後にあるのです。國民たるの義務として先づ勞働隊の服役を終り、それから我が好む所に從つて自由の働きをするのです。旅行も、交際も、遊戲も、特殊なる研究も、皆除隊以後に在るのです。我々は四十五歳を以て初めて成年に達した樣に思ふのです。それに社會改善の結果として、我々の健康が大いに進んで、今日では普通の人が八十五歳乃至九十歳まで生存するのですから、四十五歳は眞にまだ身心壯健の時代です。私はイツもそれをオカシク思ふのです、昔の人がモウそろ〳〵老衰しはじめた頃から、我々は始めて眞の生活に入るのですからね。昔の人は生命の前半を樂しき者に思つて居たのですが、今の人は其後半を樂しむのです」

(十五) 監獄、裁判所、警察、地方制度

西野は又其翌日の朝の散歩に、東京で云へば市谷と云ふ樣な所に行つて、昔の監獄の在つた所を見た。ドコに移轉したやら影も無い。朝飯の食卓で其事を博士に告げたれば、博士の曰く「左樣、監獄の事は少し聞いては居るが、西野さん、今ではモウそんな者はありま

せんよ。我々は總べて非行ある者を舊性の發現として病院に入れるのです」

　西野は舊性發現と云ふ言葉を理解しかねて居る。博士は更に說明して曰く「昔し罪と稱した者は、十中の八九、社會の不平均から起つた者で、直接と間接との差こそあれ、畢竟は皆金錢の慾です。然るに我々は今、各人に十分なる衣食の保證を與へて、一方に缺乏を防ぎ、一方に蓄積を許さぬので、全く此禍ひの根を斷つたのです。又、金錢の慾と生活の困難とに關係の無き罪惡も、昔とは違つて今では總べての人に十分の敎育を施すので、其數は非常に少いのです。それで今日では總べての罪惡を犯すべき原因は全く消えたと云つても善いのです。然るに猶折々非行を敢てする者があれば、それは原因の無き犯罪であるから、ドウしても舊性の發現と見るより外は無い。十九世紀にも或種の犯罪を病氣と見た例があるではありませんか。我々は總べての非行を病氣と見て病院に入れるのです」

　西野は感心して「成程。それでは今日の裁判所は誠

に閑散な者でしようね。財産の爭ひは無し、刑事の犯罪者は無し、辯護士も裁判官も殆んど入用はありますまいね」「其通りです。我々の社會に辯護士など丶云ふ者はありません。裁判官も極少數です。そして別にやかましい法律など丶云ふ者もありませんので、裁判官は只世事に老巧なる除隊者の中から五年の任期を以て任命せられるのです。別に憲法の擁護者として大審院がありますが、其議員は普通裁判官の中から選出せられるのです」「それでは今日の警察制度はドンナものです」「それも犯罪の少數なるに連れて極めて微々たるものです」「それでは地方制度はドンナ風になつて居ります」「それは完全なる自治團体で、今の社會に尤も重要なる職分を持つて居るのです。地方自治体は皆其地方勞働隊の幾分を使用するの權を與へられて居るので、それを使用して種々なる公益事業を行ふのです」

　其日の午後、西野は智慧子と共に彼の地の底の寢室を見に行つた。云ふに云はれぬ奇異なる感情が起らぬでは無けれども、西野も最早ほゞ今の世の有樣を呑込

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んで、今の世の人の心地がしはじめたので、モウ頭の割れそうに思ふ程の事は無い。智慧子は慰め顔に「あなたの見えなくおなりの跡で、嘸御親類達が悲しんでお居でゞしたらうね」「私には近い親類もありませんでしたが、只ひとり、私の妻となるべき人がありまして、不思議な事にはヤハリ智慧子と云ふ名でありました」「マア、ほんとに不思議ですことね。嘸其お方が力をお落しなさつた事でしようよねえ」失禮ですが、あなた其寫眞を見てやつて下さいませんか」西野は肌につけて居た其の智慧子の寫眞を取出した。智慧子はそれを見てソッと我が唇に當てゝ居た。

西野は更に其寢室の片隅に智慧子を伴うて「こゝにある此金庫の中に、私は万一の時の用意と思つて、數万弗の金貨を匿しておきましたが、今となつては其れてパン一切れ買ふ事も出來ません」と深く感慨を催して居た。智慧子には何の事やら分らなんだであらう。

（十六）　教育制度、個人生産の損失

又其翌朝、西野は博士に連れられて學校を見に行つた。博士の説明に依れば、今の教育制度の尤も重要なる點は、總べての人が一様に高等教育を受けるの機會を持つて居る事である、誰でも才能さへあれば大學迄行く事が出來る。其爲に國民の收入の半分を費すとも異存を唱へる者は一人も無い。それから普通教育に就いて云へば、恰も昔の義務教育を中學校まで進めた様な者で、總べての少年が皆廿一歳までは同一の教育を受けるのである。

博士が昔の社會を嘲る言葉に曰く「幾ら自分達ばかり教育を受けて立派になつたとて、周圍には無學な、無作法な、下等な人物が群つて居るならば、嘸不愉快な事であらうと私などは思ひますね。幾ら自分の躰にばかり香水を振りかけても、汗くさい大勢の人の中に居たらば堪りますまいがねえ。猶譬へて見れば、如何に奇麗な部屋でも、其窓の外が四方とも厩か何かであつたなら、決して居心地は善くあるまいと思ひますね」

博士又曰く「一部分の人ばかりを十分に教育して、他の部分の人を全く教育せずに置く結果は、明かなる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

階級を其間に生じて、全く異なつたる種類の樣な感じを起す事になります。凡そ世の中に此くらゐ人情を傷つける事はありません。勿論、人の才能には大いなる差等がありますけれども、一樣に敎育を與へれば皆相應の所までは進歩するのです。それを一部分の人が專有して他の部分に分たぬとは、何と云ふ不人情の仕方でしよう」

　西野が學校を見て特に深く感じた事は、其生徒の體格の孰れも〳〵立派なる事である。井士家の人々なり、其他一般の人々を見て、どうも昔の人よりは少し大きい樣だとは思つて居たが、學校の生徒を見るに及んで明かに其事を感じたのである。それで其事を博士に告げたれば、博士は非常に滿足の樣子で「實際あなたにソウ見えますか。我々は聊かそれを誇つて居るのだけれど、皆推測ばかりで十分の證據にならなんだのですが、あなたの目にソウ見えるとすれば始めて確實の證據を得た譯です。實際我々は體育に重きを置いて、十分に注意して居るのです」

其夕、學校巡視の歸りに、西野は博士と共に公食堂で井士夫人と智慧子とに會して、四人一しよに食事をした。其跡で又、婦人達は何やら用事があつて外に行く、西野と博士とは久しく食堂に殘つて生産分配の話を始めた。博士は昔の社會の個人生産法の不經濟を說いて滔々數千言に及んだが、こゝには只其要項だけを記しておく。

　個人生産の不經濟は、第一、見込違の企業より生ずる損失。第二、同業者の競爭と敵視とより生ずる損失。第三、生産過多、恐慌、及び其結果としての事業の停止より生ずる損失。第四、常に資本と勞力とを遊ばせるより生ずる損失。

（十七）智慧子の秘密、婦人の地位

　其夜、西野は音樂室に於て智慧子と語つて居たが、「智慧子さん、私一つお尋ねしたい事がありますが」と少し改まつて云ひだした。「マア、何の事で御座います」と智慧子は不思議そうにして居る。「若し間違つたら御免下さい、私が夢を見たのかも知れませんから。然し

私は確にソウ聞いたと思ひますが、アノ私が初めて目の醒めかけた時に、先づ私の耳にヒソ〳〵と話をする人の聲が聞えました。跡で思へば、それはアナタとアナタの御兩親との聲であつたのです。それで其時アナタはアノ事はマダ話さずに置いて下さいよ」と仰しやる、父上は別に確とした返事をなさらぬ、そうするとアナタが是非にと仰しやる、母上もアナタの加勢をなさる、そこで父上も止むを得ず承知をなさる、そうする中に目が醒めて見たれば父上が只ひとり居られたのです。斯う私は記憶して居りますが、アレは一躰ドウ云ふ譯か、差支なくば御話し下さいませんか、私は何だか氣に掛かつてなりませんが」

　智慧子は之を聞いて顔から首まで眞赤になつた。西野は扨てこそ夢でも無かつたと思ひながら「智慧子さん、何やらソコに秘密がある樣に見えますが、若し私の身に關する事ならば、ドウかそれをお話し下さいますまいか、私は氣になつて堪りませんが」智慧子は漸く幽かな聲で「でも、それは深くアナタに關すると云ふ事でもありませんもの」「イヤ、それでも何か私に關係のある事には相違ありますまい」智慧子は彌々赤くなつた。西野は其意を解しかねたが、智慧子の耻ぢらふ樣の美しさに、少しはカラカフような氣にもなつて、「どうしても御話し下さる事は出來ないのですかねえ。それならば致方はありまん」と少しスネル。「でもそれは……あなたのお心次第です」「私の心次第、それは又ドウ云ふ譯です」「アレもう其事は善いではありませんか。折角の音樂を聞きそこなひますよ」智慧子は壁の釦を押した。暫くは妙なる音樂に話も途切れたが、それが終つた後、智慧子は改めて西野に向ひ「西野さん、お願ですからドウソ其事は聞かずに置いて下さいまし。父にも母にもお話なさつては厭ですよ」

　そうまで云はれて見れば西野も仕方はなく、其夜は其儘にして別れたが、思へば思ふほど不思議で堪らず、寢床に入つても眠られず、明方近くまで悶えて居た。

　其翌朝、西野は智慧子の事を思ふついでに、フト今の社會の婦人の地位について疑問を起した。朝飯後の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

談話に其事を博士に問へば、博士は頗る簡單に説明した。曰く「今の婦人は男子と同じく勞働隊の勞働員となるのです。但し、母としての任務を諜す間だけは免除せられるのです。それで結局、婦人は前後數回に五年、十年、或は十五年位の服役をするのです」「では婦人が結婚したからとて必ずしも除隊となる譯ではありませんね」「勿論。別に家事と云ふはなし、夫は子供の樣に始終世話をしてやらねばならぬ者ではなし、除隊になる筈がありません」

猶博士の説明に依れば、婦人の勞働は固より男子に比して輕き者で、殊に其性に適する種類を撰び、時間も短く、必要の場合には休暇も多く定めてある。それから婦人隊は全く男子隊と別になつて居て、婦人の總大將があつて、それが大統領の下に立つて他の諸省長と共に內閣を組織して居る。そして婦人の事に關しては裁可權を持ち、國會に對して責任を負ふ事になつて居る。又婦人の裁判官があつて婦人間の事を裁判して居る。

西野は、今度は婦人に對する分配の事について疑問を生じて來た。「それでは婦人に對しても男子と同額の切手を與へるのですか」「勿論」「私は又、婦人は折々勞働隊を退くので分配も少いかと思ひました」「そんな事はありません。マア善く考へて御覧なさい。勞働隊を退く代りに子を産み子を育てると云ふ大役を務めるではありませんか。國民は何よりも先づ此の大役に向つて感謝せねばなりますまい。若し分配に差等を付けるならば寧ろ婦人には多く與へるが至當かも知れません」「それでは生活上について妻は少しも夫に依賴する事はないのですね」「勿論。生活については、妻も夫に依賴する事はなく、子も親に依賴する事はないのです。子は生長してから親の爲に働くのではなく、國民の爲に働くのであるから、國民の公費を以て之を養ふのは當然の事です。今の社會では、男も女も、子供も、皆直ちに國民に屬するので、親は只數年のあいだ世話人として子の爲に働く迄の事です」

それより話は結婚問題に移つたが、博士の説明に依

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れば、今の社會に於いては、男女とも全く對等の地位に立つて相交はるので、結婚は只愛情にのみ依つて成り立つのである。そうして又今の社會に於いては、我が子に殘すべき者は、財産でも地位でもなく、全く身心の美質のみであるので、配偶者の撰擇には誰も皆十分に心を用ゐるのである。それで獨身者と云へば大抵世に信用を失つた人々である。今の婦人は次の時代に對する責任を重んじて、善き子を產まねばならぬと云ふ義務の念が强くて、殆んど、宗教的の信仰と熱心とを示して居る。其兩性淘汰の結果として、今の人は、精神に於ても、躰格に於いても、著るしき進歩をしたのである。

（十八）　昔の智慧子と今の智慧子

今日は說教を聞くと云ふので、西野は會堂に行く事かと思うて居たれば、今の說教は會堂に行つて聞く事も出來るけれど、大概は電話で聞くのだとの事である。今日は有名なバルトン氏の說教があつて、それは電話に限るのであるが、聽衆無慮十五万人と云ふ事である。

食後一二時間を經て井土家の人々は音樂室に集まつた。智慧子は例の釦を押した。バルトン氏の神々しき聲は間もなく聞えはじめた。然るに其說教の冐頭は、「今度我々は不思議にも十九世紀の人を生ながら見る事を得た」と云ふ樣な事であつたので、智慧子は氣兼して暫く電話の響を止め、外の說教にしようかと西野に問うたけれど、西野が少しも搆はぬと云ふので、又其の續きを聞く事になつた。

說教の本文は畧しておくが、西野は其說教を聞いて甚だ深く感ずる所があつた。即ち十九世紀と二十世紀との差異を著るしく說き聞かせられて、自分と今の世の人との間に到底越ゆべからざる隔ての溝のある事を感じた。然るに、それほどの隔てのあるにも係はらず、彼れ是れ思ひあはするに、西野はドウしても智慧子に對して戀着して居るのである。是れはモウ自ら欺く事の出來ぬほどになつて居る。あゝ世を隔てたる人に向つて戀をするとは、何と云ふ心ぼそき事であらう。西野は其日の午後、又彼の地の底の寢室に赴いた。「あゝ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

是れより外に己の家はないのだ。己はこゝに居てモウどこにも出ぬが善いのだ」斯く思ひながら部屋の中を見廻しながら、強いて思を昔に寄せたが、斯くまで遠く過ぎ去つたる昔はモウ少しも我を慰めるに足らぬ。西野は死んだでもなく活きて居るでもなく、一種不思議の苦しき感じに襲はれて居た。

そこに智慧子が思ひがけなく顔を出して一跡をつけて來ましたよ」と云つてはニコ〳〵と笑つて居る。西野は其光に打たれて却つて愁を增すのである。「又何を考へこんで居らつしやる、御邪魔になりますか」「いゑドーゾおはいり下さい。然し私はモウお話をする心地もありません」「ドウして、ドウしてマアそんな事を」「あなた方は親切にして下さるし、私も勉めて今の世の人にならうと思うて居ましたが、今日バルトン氏の說敎を聞いて、ツク〳〵と感じました。迚も私は今の世の人には成れません」「あれ又其樣な事を。アンナ說敎をお聞かせ申すてはなかつたに。あれはバルトン氏がアナタを見も知りもせぬからの事です。私達の考へは又それとは違ひます。私達がイッあなたに隔てをしました。私達は少しの隔てもなく、全く我家の人と思うて居るてはありませんか。それはアナタにも大概お分り

になりさうなものですに」

智慧子は言葉を盡して西野を慰さめた。其情〳〵しき色と聲とは終に深く西野を動かした。西野は終に堪へずして其の愛の心を智慧子に告げた。智慧子も亦終に久しく包み得ずして、深く西野を愛する旨を答へた。「然しマア、まだ一週間も立たぬ交際の間柄でこんな事を申すとは」と智慧子は稍安んぜぬ樣子であつたが「是れには外に譯もある事で御座います、それはドーゾ母からお聞き下さいまし。其上で又改めてアナタの御心も伺ひましよう」と云ひ終つて出て行つた。

西野は智慧子の跡を追うて井土夫人の部屋に來た。智慧子は何やら夫人の耳に囁いておいて、バタ〳〵〳〵と駈けて行つてしまつた。其跡で夫人が西野に語つた所に依れば、此智慧子は西野の戀人たりし其の昔の智慧子の曾孫であるとの事。其の昔の智慧子は西野の死後を弔ふと十四年の後始めて或紳士と結婚して、其間に一人の男の子を產んだのが即ち今の井土夫人の父であるとの事。夫人は其祖母智慧子を見た事は無かつたけれど、其身の上の話は善く聞いて居たので、それて自分の娘に其名を付けたのであつた。それで今の此智慧子は、其名前の因緣からして深く其曾祖母の事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を思ひ、又西野から送られた手紙の遺つたのを讀みなどして「私も西野といふ人の樣な實意のある人とでなければ結婚はせぬ」など、戯れに云つた事もあつた。然るに、西野が地の底から掘り出された時、其胸にあつた戀人の寫眞が第一の證據になつて、其他種々取調の結果、是れこそ西野其人と知れた次第である。

　西野は直ちに智慧子を尋ねて限なき滿足の意を告げた。其夜二人は庭園に月の光を浴びて夜半過まで語つて居たが、今はモウ何の秘密も無い、智慧子は最初西野が目の醒めかけた時の事を説明した。「あの時父は、是れ〳〵の續きあひだと話したら、あなたが必ず安心なさるであらうと云ふのです。父は男ですものねえ、私の事など考へては呉れないのです。」それから母が味方をして呉れたのでヤット云はない事になつたのです。其ヒソ〳〵話がアナタに聞えて居ようとはホントに思ひも寄らぬ事でした」

＊　＊　＊

「モシ、モシ、旦那モウお目ざめになりませんか。九時が過ぎました」と呼ぶのは我が老僕の聲である。西野はフト目を醒ました。彼れは地の底の寢室に寢て居るのである。「何をビックリして居らつしやります。マア是れでも召上りませ」と老僕はコップを差出した。是れは例の動物電氣博士の置て行つて呉れた目さましの藥である。西野はそれを飲んでヤット分つた。彼れは百年後の社會を夢みて居たのである。そこにある新聞紙を取上げて見れば、正に千八百八十七年五月三十日と記してある。（をはり）

　枯川生申す。此話の中に現はれたる社會組織は原著者ベラミーの理想であつて、必ずしも我猫の理想ではない。社會主義は決して或一定の雛形を持つて居る者ではない。國に依り、時に依り、勢ひに依り、形は色々に變化するであらう。只、平等博愛の人道と共同生活の經濟主義とはドコまでも一貫して動かぬ者である。此話を讀む人は、必ずしも形に拘泥せず、其主義精神を玩味せられんことを希望致す。

　又、此話を讀みて社會主義に對し多少の興味を持ちたる人々は、更に矢野文雄氏の著したる「新社會」を讀まん事をお勸め致す。矢野氏の案には我猫など悉く贊成する譯にはあられど、其小說躰に綴られたる所と日本の社會に應用してある所とが、兎も角も此主義に入るの階梯として、最も善き本であると思ふ。此頃「通俗新社會」と云ふのも出來た。其代價等は本號の廣告を見られよ。

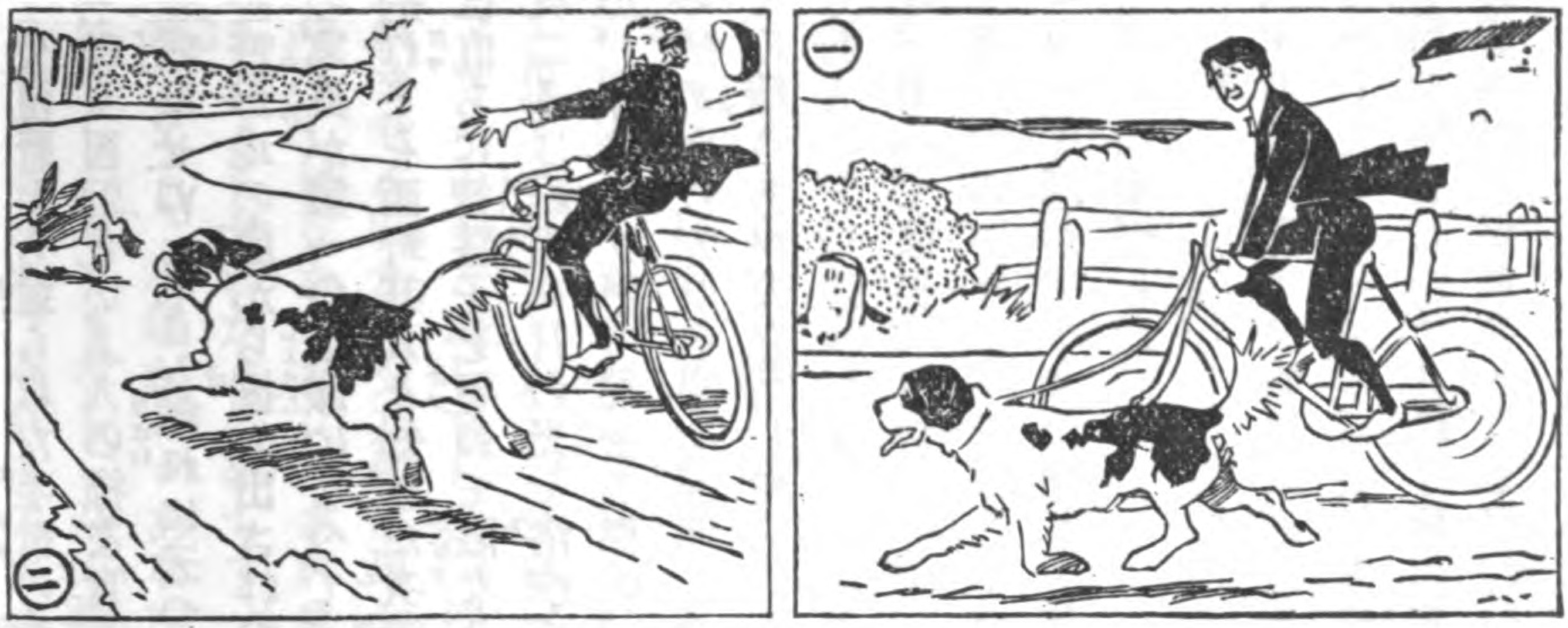
　猶社會主義について多くを知らんと欲する人は左の數書に就いて研究せられよ。

▲社會問題解釋法（安部磯雄著）（定價一圓廿錢、郵稅十錢）
▲社會主義神髓（幸德秋水著）（定價三十錢、郵稅四錢）
▲我社會主義（片山潜著）（定價廿五錢、郵稅四錢）
▲社會主義論（安部磯雄著）（定價十錢、郵稅二錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

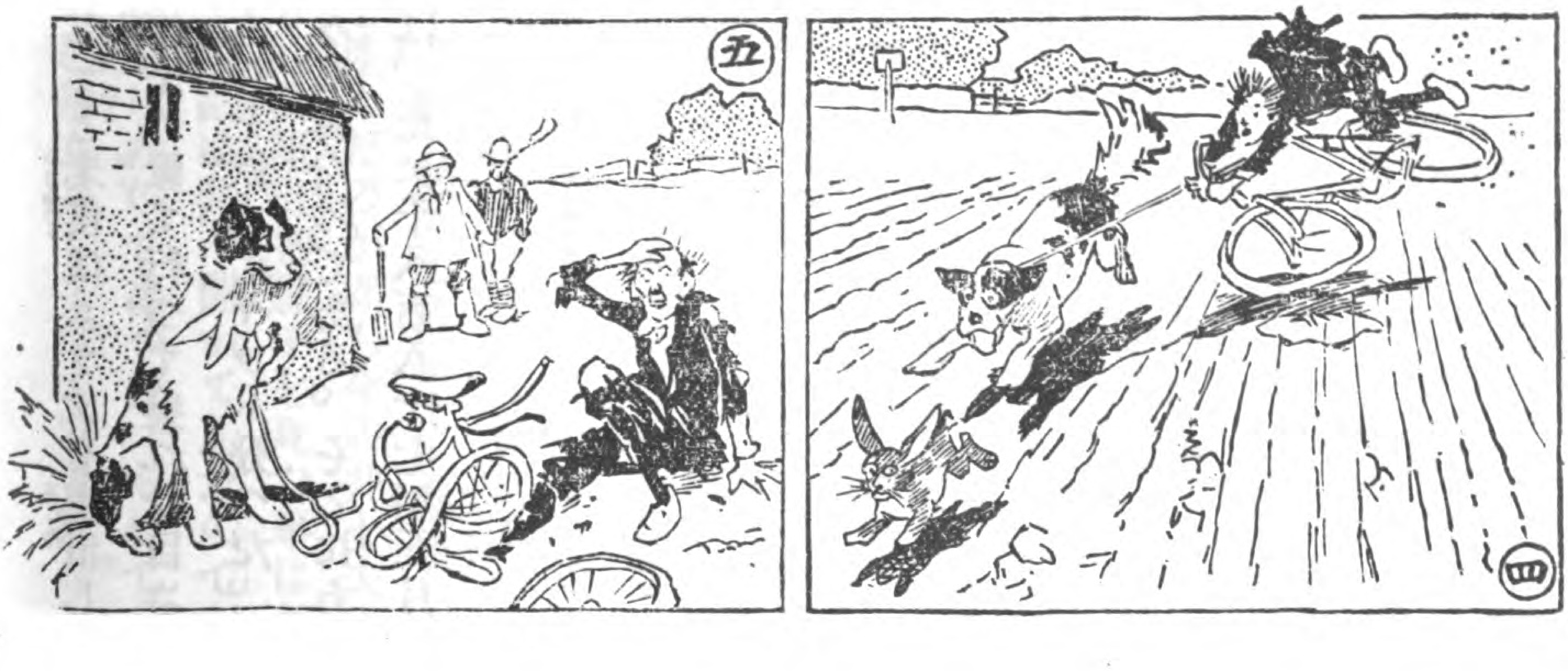
自轉車の失策

(新案犬の先曳も其實あまり妙案て無かつた)



▲桔梗花や咲時ポンと云ひそうな
▲朝顔や其日〳〵の花の出來
▲名も善しや、眞萩、白萩、萩が花
▲しろ〳〵と猶露けしや女郎花

▲ゑくぼ深く桔梗の花に似たるかな
▲朝顔や一輪深し淵の色
▲沼涸れて水引の花蓼の花
▲茨老い、薄痩せ、萩おぼつかな



●秋のくさ〴〵

▲健康を回復すべき時　夏の暑さには誰しも少しは躰を弱らせるもの。それを回復するのは今である。是より我々の肉は肥え、宍は堅まるべき時節である。身躰の健康は決して食物や薬やばかりで得られるものでは無い。此の秋風に心を勵ませよ、氣を引立よ。氣と心とは即ち人の命である。

▲朝起の習慣　も此時に作れ。此頃の冷々とした朝風を吸ふのは、躰の爲にも、心の爲にも、何に代へがたき最善最良の强壯劑である。

▲冷水浴の習慣　も此時に作れ。秋の朝風に水浴を取る、是れほど氣持の善い事が又あらうか。永い暑さに緩んだ肉が忽ちに引締つて、見る〳〵鐵の如く堅くなる心地がする。

▲何事も今思ひ立て　夏の間は何事も投げやりになるもの。何事も今こそ思ひ立つべき時である。兼ねて斯うもしたいと思ひながら決しかねた事、或は兎かく怠りがちに中絶となつた事、それらを思ひ立つは今である。今の時を過ごしては又寒くなる、年末、正月、花が咲く、迚も思ひ立つ時はない。

▲改革を斷行せよ　家庭の舊弊を破つて新風を興さんと欲する者、今此時に改革を斷行せよ。此の秋氣の清きに乘じて斷然として改革に着手せよ

▲長子相續法　は我號の平生不快に思ふ所である。次號の紙上に少し其事を論じたいと思ふ。歷史を見よ、芝居を見よ、如何に相續の爭ひ多き事よ。

▲夫に不正の行ひありたる場合　其妻の覺悟は如何。柔順ばかりが婦人の德ではない。毅然として動かざる所、凛然として進む所、それがあつてこそ始めて眞に婦人の美は發揮せられるのである。春の如く柔かなれ、而して又秋の如く强くあれ。是れも次號の紙上に少し書いて見たいと思うて居る

▲食物論　此頃料理法の研究が世上の流行となつて居る。趣味、實益、共に喜ぶべき事である。然しながら又其弊もないではない。次號に食物論を書くつもり。

●匆々一筆

▲一葦生　よりの「常々心を痛め煩悶に堪へぬ事情」につきての御相談、本號には餘白なきに依り次號に於て聊か小生の意見を申上げる積りであるが、それまでの所、謹んで「勇者」の二字を足下に呈しておく。善をなすの勇、痛苦に堪ふるの勇、君乞ふ斯くの如きの勇者を以て自ら任ぜよ。

▲内藤正一君　「主義に忠なる人の小なる救援軍として」本誌を購讀せらるゝとの事。小生が本誌編輯中、やゝ惰氣を催す時、斯くの如き未見の仝志ある事を思うて、奮然として新に勇氣を喚び起す事は幾度てあるか知れませぬ。多謝々々。

▲某君　より歐米諸國に於ける普通選擧の有樣を知らせよとの御注文がありました。依つて少しく左に御答致す。

▲佛國では、現に兵役に服せずして、六個月以上或都市若しくば州に住居する廿一歳以上の男子は、皆選擧權を有して居ります。一八九八年の統計に依るに、人口三千八百五十九万餘、其中にて選擧人一千二十三万、其中にて實際選擧權を行使したる者七百六十五万余▲瑞西では、廿一歳以上の男子は悉く選擧權を與へられます。一八九九年の統計に依るに、人口三百三十一万餘、其中にて選擧人七十三万餘、選擧權行使者四十万餘▲米國では州に依つて選擧資格の差異がありまして、或州では一年以上の住居を必要とし、或州では多少の納稅を必要として居る。又或州では婦人にも男子と同樣に選擧權を與へて居ります▲英國では多少の制限がありますが、それでも人口の約六分の一は有權者であります▲獨逸では人口の約五分の一になつて居る（日本ではそれが四十分の一になつて居る。即ち、人口四千万の中で有權者は百万足らずてある）▲濠洲にも婦人に選擧權を與へた所があります。

▲平久れん樣　に申す。「我子秀雄」は親戚友人にばかり配られた者で賣品てはありません。

▲小笠山人　より「家庭の娛樂として草花の培養は心を樂ましむると共に身躰にも宜しかるべしと存申候、若し御仝感を得て其月中の觀賞植物、下種、移植等を御記載下さらば一段の趣味を添ふべく」とのお言葉。小生も草花は甚だスキなれど、小生のスキは只在るが儘の者を愛する、或は僅に一二種を買ふと云ふ位にて、其培養法を說く事などは思ひも寄りませぬ。若し讀者諸君に篤志の御方ありて、おりおり投書せらるゝならば喜んで掲載致します。

▲正滿生　より俳句を獨習するには如何なる本が善いかとのお尋。それには躊躇なく「高濱虛子著、俳句入門」（定價二十錢、郵稅二錢、神田南甲賀町内外出版協會發行）をお勸め致す。

前金切の注意

本誌第壹號より半年分前金にて御注文の向は本號限りにて前金切れと相成りますにつき、成るべく早く（遲くとも本月中に届くやう）次の前金御拂込を願ひます。若しそれ迄に御拂込なき時は止むを得ず第七號の發送を見合はせます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

緑岡隱士著

再版

母と妻

附錄　交際の栞

袖珍美本
定價金二十錢
郵税四錢

本書は專ら事例を泰西諸國に取り母及妻に對し新時代の要求に應ずべき資格を敎へ敎訓を與へたるものなれば世の母たり妻たるものは勿論家庭及婦女問題に興味同情を有するものは一讀多大の參考となるべきは疑を容れず大方同好の士女愛讀を賜はゞ幸甚なり

○新刊　**少女**

定價廿五錢
郵税四錢

（附錄）少女の社交的心得。約婚（手續、約婚中の心事、破約の慘事）天才と結婚

發兌　東京銀座尾張町二　警醒社書店

朝報社有志

講演集

第四集　九月中旬發行

第壹輯
- 藤村操の死に就て　黑岩周六君
- 禁酒禁煙談　中島氣崢君
- 富と德　內村鑑三君

第貳輯
- 建築と道德　山縣五十雄君
- サン、シモンの傳　幸德傳次郎君
- 社會主義と婦人（社外）　木下尚江君

第參輯
- 心の修練　黑岩周六君
- 宗敎時代の到來に就て　內村鑑三君
- 巴里紐育間陸行談　山縣五十雄君
- 社會主義の根底　幸德秋水君
- 自由傳道と自由政治　內村鑑三君

▲一部定價十錢、郵税壹錢、十部前金郵税共壹圓
二十部前金郵税共壹圓九十錢

發行所　東京日本橋區橘町三丁目十一番地　萬成社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭の好讀物

通俗新社會

矢野先生の新社會は近來無類の評判を得た好著であるが文字も意義も稍々六ヶ敷ので何人にも讀めると言ふ譯に行かぬ依りて先生自身に之を書き和らげて假名が讀めれば誰でも分る樣に總振假名附とされたのが本書である◎定價金二拾五錢で郵税金四錢◎家庭では一部是非必要である

模樣畫初歩

模樣畫は極めて必要なもので墨畫には勿論裁縫刺繡などには是非缺くべからざる次第なれども是迄は順序連絡がチャンとついて分かり易く敎科書的に著作されたものはない依りて白濱徵芳川流外兩先生が苦心の上本書を世に公にされた且つ參考書として別に一冊書き方色取などを述べられたものが附いて居る◎定價が全二冊で金四拾五錢郵税金六錢◎家庭にも一部是非必要である

惣菜三百種

本書は共立女子職業學校敎員井上善兵衛先生の近著で家庭日用の惣菜料理特に野菜玉子豆腐などの調理法を精しく又簡易な西洋料理の事も載せられてある本書一冊あれば毎日幾つたけ甘い面白い食物の調理が出來て家庭の快を引立たせる◎定價金四拾五錢で郵税金六錢◎

女子運動法

是は獨逸の原書をば我邦普通體操家の泰斗坪井玄道先生が日本の國風に當嵌まる樣に書きなされたるもので先生の洋行歸りの御土產である女子の運動は其聲のみが高くて其法が備はらない今日には丁度此節のアイスクリームの樣なものである◎定價金壹圓貳拾錢で郵税金拾八錢◎家庭では一部是非必要である

衞生美容術

是はドクトル川瀨元九郞先生及夫人川瀨富美子女史の共編で亞米利加風の家庭躰操法を本邦の國風に當嵌まる樣に書きなされたものである名前の講釋から言へば衞生法の原理に基づいて容姿を端麗にして身躰を强壯にする方法を述べたものだ◎定價金貳拾五錢で郵税金弐錢◎家庭では一部是非必要である

室内體育

今日躰育の大切なるとを知らぬものは一人もないが一定の時間とか運動の場所とか餘り規則立てゝ戶外に運動するのはチト乙空な爲に容易に行はない樣にする之を醫學博士三島通良先生が慨嘆されて室内で輕便簡易に躰育の實効を擧げ得らるべき方法を口演躰で述べられたのが本書である◎定價金五拾錢で郵税金

發行所　東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地　大日本圖書株式會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

再版

母と妻

附錄 交際の栞

袖珍美本
定價金二十錢
郵稅四錢

本書は專ら事例を泰西諸國に取り母及妻に對し新時代の要求に應ずべき資格を敎へ敎訓を與へたるものなれば世の母たり妻たるものは勿論家庭及婦女問題に興味同情を有するものは一讀多大の參考となるべきは疑を容れず大方同好の士女愛讀を賜はゞ幸甚なり

○新刊 **少女**

定價廿五錢
郵稅四錢

(附錄)少女の社交的心得。約婚(手續、約婚中の心事、破約の慘事)天才と結婚

發兌 東京銀座尾張町二 **警醒社書店**

第四集 九月中旬發行

朝報社有志講演集

第壹輯
- 藤村操の死に就て 黒岩周六君
- 禁酒禁煙談 中島氣峥君
- 富と德 内村鑑三君

第貳輯
- 建築と道德 山縣五十雄君
- サン、シモンの傳 幸德傳次郎君
- 社會主義と婦人(社外) 木下尚江君

第參輯
- 心の修練 黒岩周六君
- 宗敎時代の到來に就て 内村鑑三君
- 巴里紐育間陸行談 山縣五十雄君
- 社會主義の根底 幸德秋水君
- 自由傳道と自由政治 内村鑑三君

▲一部定價十錢、郵稅壹錢、十部前金郵稅共壹圓
二十部前金郵稅共壹圓九十錢

發行所 東京日本橋區橋町三丁目十一番地 **萬成社**

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭の好讀物

通俗新社會

矢野先生の新社會は近來無類の評判を得た好著であるが文字も意義も稍々六ケ敷ので何人にも讀めると言ふ譯に行かぬ依りて先生自身に之を書き和らげて假名が讀めれば誰でも分る樣に總振假名附とされたのが本書である●定價金二拾五錢で郵稅金四錢●家庭では一部是非必要てある

模樣畵初步

模樣畵は極めて必要なもので墨畵には勿論裁縫刺繡などには是非缺くべからざる次第なれども是迄は順序連絡がチヤンとついて分かり易く教科書的に著作されたものはない依りて白濱徵芳川流外兩先生が苦心の上本書を世に公にされた且つ參考書として別に一冊書き方色取などを述べられたものが附いて居る●定價が全二冊で金四拾五錢郵稅金六錢●家庭にも一部是非必要である

惣菜三百種

本書は共立女子職業學校教員井上善兵衛先生の近著で家庭日川の惣菜料理特に野菜玉子豆腐などの調理法を精しく又簡易な西洋料理の事も載せられてある本書一冊あれば每日變つた甘い面白い食物の調理が出來て家庭の快を引立たせる●定價金四拾五錢で郵稅金六錢●

女子運動法

是は獨逸の原書をば我邦普通體操家の泰斗坪井玄道先生が日本の國風に當嵌まる樣に書きなされたるもので先生の洋行歸りの御土產である女子の運動は其聲のみが高くて其法が備はらない今日には丁度此節のアイスクリームの樣なものである●定價金壹圓貳拾錢で郵稅金拾八錢●家庭では一部是非必要である

衞生美容術

是はドクトル川瀨元九郞先生及夫人川瀨富美子女史の共編で亞米利加風の家庭躰操法を本邦の國風に當嵌まる樣に書きなされたものである名前の講釋から言へば衞生法の原理に基づいて容姿を端麗にして身躰を强壯にする方法を述べたものだ●定價金貳拾五錢で郵稅金貳錢●家庭では一部是非必要である

室內體育

今日躰育の大切なるとを知らぬものは一人もないが一定の時間とか運動の場所とか餘り規則立てゝ戶外に運動するのはチト乙空な爲に容易に行はない樣にする之を醫學博士三島通良先生が慨嘆されて室內て輕便簡易に躰育の實效を擧げ得らるべき方法を口演躰て述べられたのが本書である●定價金五拾錢て郵稅金六錢●家庭では是非一部必要である

發行所　東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地　大日本圖書株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堺枯川著

家庭の新風味

全六册合本

著者は此書が多くの新婚の人に讀まれんことを望む。著者は此書が多くの將に結婚せんとする人に讀まれんことを望む。著者は又此書が多くの中年の人及び老年の人に讀まれんことを望む。要するに著者は此書が多くの家庭文庫に備へられんことを望む。

赤表紙合本全一册　割引價八十錢　郵税八錢

取次所　東京市京橋區新港町一丁目十七番地　**由分社**

（目次は表紙の第二頁に在り）

●家庭雜誌目錄

▲第壹號（四月三日發行）

▲本紙の特色▲我輩の根本思想▲動物虐待防止會▲ユトピアの話▲イソプ教訓談▲家庭文庫の必要▲古書新書▲娘の學ぶべき事▲僕にもオバアさんが欲しい（讀切小說）▲倫敦の日本料理▲編輯及發行事情等

▲第貳號（五月二日發行）

▲茨の花（漫吟）▲子なき人に與ふる書▲老人問題▲家庭の消息▲海豹と人との交（畫入）▲梟の一家族（滑稽畫）▲偶感▲夕日岡園遊會の記▲菊坊のお話等

▲第參號（六月二日發行）

▲新天地（漫吟）▲隅田川邊の好家庭▲ワシントン及其母（肖像）▲鼠の失策（滑稽畫）▲偶感▲讀者の顧問▲樂しき生活▲結婚離婚の統計▲天文の話▲家庭の消息▲匆々一筆等

▲第四號（七月二日發行）

▲三つ子の感化力（讀切小說）▲不二彥（肖像）▲柿山伏（狂言）▲猪とクヅ鹿（滑稽畫）▲偶感▲讀者の顧問▲樂しき生活▲加藤邸晩餐會の記▲倫敦雜話▲家庭文庫▲匆々一筆等

▲第五號（八月二日發行）

▲子供の導き▲細君の說法▲小猫の生理（畫入）▲新案四頭立犬車（滑稽畫）▲望みと疑ひ▲苦痛と不平▲ウソツキ卯太郎▲夫婦の孰れが多く貞實なるか▲世界奇聞▲一口話▲「まだ見ぬ親」梗概等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

萬朝報英文記者山縣五十雄著（上中下三冊）

英詩研究

英米大詩人の絶唱英詩中寶玉ともいふべきもの大小七十餘篇を收め一字一句に譯文を以て最も精細なる註釋を加へ毎章詳密なる講義を添えたり獨學自修者は此書を得て渡りに船の感あらん

定價一冊金五十錢　郵稅六錢　四六版三百頁、上卷發行

在米河上翠陵著（寸珍美本二百頁）

男女 米國書生氣質

米國男女學生の風俗生活等を輕妙洒落の筆を以て描寫したるもの面白きこと此上なし附錄**如何にして渡米すべきか**は米國遊學の志ある者殊に學資に乏しき者の再三讀すべき價値あり

前文科大學英文學講師ウード博士校閲

萬朝報外報記者　斯波貞吉著（袖珍美本）

定價金二十五錢　郵稅二錢

實用 英語對話

著者は先に英國に遊學し又文科大學に於て英文學を專攻し後諸學校に於て英語教授の任に當られたる人にして本書は氏が親しく外人と交際し又生徒に教へられし實驗により最も我國人に適するやう著はされたる者にして世に有觸れたる會話書と全く其撰を異にせり殊に附錄**海外旅行對話**は洋行者の爲めに此上なき便利を與ふべし

定價金三十五錢　郵稅二錢　百五十頁

發行所　東京市本郷區彌生町三　**言文社**

萬朝報記者幸德秋水著

社會主義神髓

定價三十錢郵稅六錢

第三版發賣

▲**大阪朝日評**　叙述整然として繁簡宜きを得、加ふるに著者の雄麗なる文章を以てしたれば、社會主義の大綱を說く者の隨一也

▲**毎日新聞評**　一貫せる議論の底に情熱炎々たるを見る、以て一大文學と云ふべく、又一大演說と評すべし

發兌元　京橋區弓町二十一番地　**朝報社**

大賣捌　萬賣舍　東京堂　東海堂　上田屋　服部　扶桑堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA